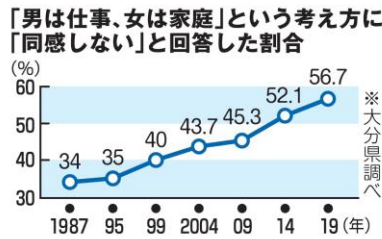
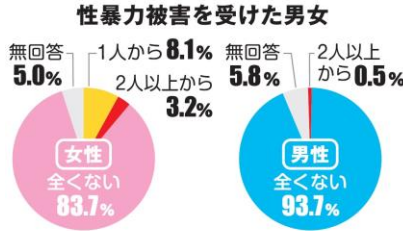




県は 2019 年度に実施した「男女共同参画社会づくりのための意識調査」の結果をまとめました。

① 新たな設問の性暴力について、被害経験があると答えた女性は何%でしたか？また、被害を相談しなかった女性の割合は？



② 「男は仕事、女は家庭」に「同意する」は男女合わせて何%でしたか？「同意しない」は何%で、前回（14年度）の調査と比べてどうでしたか？

性暴力についての問いは、被害者を支える県の救済センター「すみれ」を16年度に開設したことから追加した。被害経験について、男性の93.7%は「全くない」と回答。女性は「1人から」「2人以上から」を合わせて11.3%だった。女性経験者の66.2%が被害を相談せず、理由は「恥ずかしくて言えなかった」が59.2%で最多。「男は仕事、女は家庭」に「同意する」は男女合わせて6.4%（前回14年度は8.8%）。「同意

調査は1987年度以降、ほぼ5年おきに実施。2019年度は県内に住む18歳以上の男女3千人を無作為に選り、1082人から回答を得た。有効回答率は36%。

## 「女性は家庭」に「同意せず」増加

県の県民生活・男女共同参画課は「意識改革は道半ば。調査結果を21年度からの第5次おおいた男女共同参画プランや、女性活躍推進といった施策に生かしていく」と話している。（山口真由）

### 県が意識調査

県は2019年度に実施した「男女共同参画社会づくりのための意識調査」の結果をまとめた。新たな設問の性暴力について、被害経験のある女性は11.3%に上った。「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同意しない」人の割合は前回調査に続いて増えるなど、性別による固定的な役割分担意識は解消されつつあることがうかがえた。

女性66% 相談できず

性暴力被害11.3%

③ 男女の平等感で「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば」を合わせた割合が高かったのは？三つ書いてください。

④ 女性が仕事を持ち続けるために必要な支援で最も多かったのは「家族や周囲の理解と協力」です。あなたは何が一番大切だと思いますか？